
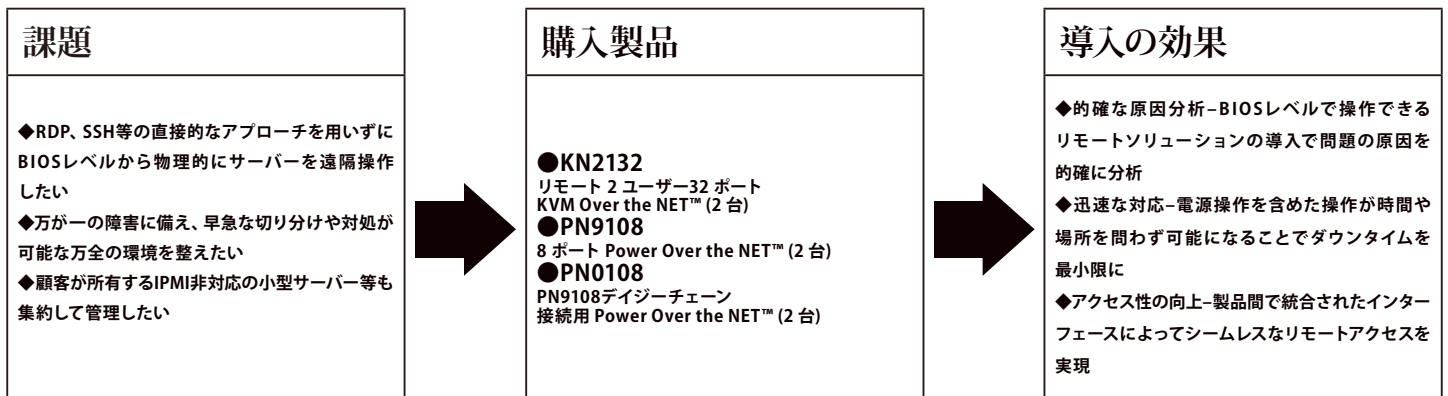


ドヴァ ATEN Over the NET™シリーズで高効率な保守環境を構築

沖縄データセンターの監視・保守用にKN2132とPN9108/PN0108を導入

	<p>株式会社ドヴァ</p> <p>株式会社ドヴァ(以下、ドヴァ)は、インフラ整備、ネットワークやシステムの構築から、それを活用するためのサポート・運用・保守まで幅広く手掛けるシステムインテグレーター(Sier)だ。豊富な経験と知識に加え、通信技術を核とした最新テクノロジーの追求によって、顧客のあらゆる要求に最適な提案ができるICT(情報通信技術)のプロフェッショナルとして知られている。その実力は、これまで数多くの優良企業から信頼を得て、直接かつ継続的に指名されているという実績が証明するところである。</p> <p>ドヴァではサーバーのハウジング先として沖縄データセンターを提供。主要産業集積地から離れた沖縄は地震自体が少ないため、同時被災率を最小限に抑えられる。また、同じくここを活用しているのがクラウド型オンラインバックアップサービス「シーサーガード +BACKUP」。データセンターの地の利と、沖縄への大容量回線に支えられたこのサービスは、設定の容易さ、安全性、スピード、費用対効果のいずれにおいても優れているとあって今注目だ。ハウジングにせよバックアップにせよ、ここをディザスタリカバリの拠点にすることで、企業の事業継続性を確保しようというのがその狙いである。</p>
----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



導入前の課題

ポートの増設と IPMI 非対応サーバーのコンソール集約を IP-KVM スイッチでクリアしたい



本社を置く横浜ランドマークタワー

顧客の大切なサーバーやデータを預かっている沖縄データセンターへのリモートアクセス環境には「高いセキュリティ」と「障害への迅速な対応」が不可欠だ。Sierとして顧客の機器導入を支援することもあるドヴァ、実は以前からリモートアクセスにATENのIP-KVMスイッチを使用していたという。IP-KVMスイッチであれば BIOSレベルの操作に対応しているため、監視するサーバーに対してリモートデスクトップやSSH等の直接的なアプローチが防げると同時に、障害時にもハードウェアのメッセージから問題の切り分けがスムーズになるからだ。

しかしながら、サービス拡充に伴って管理サーバーが増えるにつれ、それまでのIP-KVMスイッチではポート数が足りなくなるという問題が浮上した。また、顧客からハウジングされたサーバーの中にはIPMI非対応の小型サーバー等もあるため、これらを集約して効率的に遠隔監視する必要もあった。こういった背景から新たなIP-KVMスイッチを検討することになったそうだ。

購入のポイント

必要条件を抜群のコストパフォーマンスでクリアする KN2132 に電源管理 PN シリーズを併用



KN2132
リモート 2 ユーザー 32 ポート KVM Over the NET™

PN9108
8 ポート Power Over the NET™

PN0108
PN9108 デイジーチェーン接続用 Power Over the NET™

沖縄データセンターの運用に携わる清水氏(同社取締役ICTソリューション統轄本部)は、これを受けて新たなIP-KVMスイッチの導入検討を始めた。

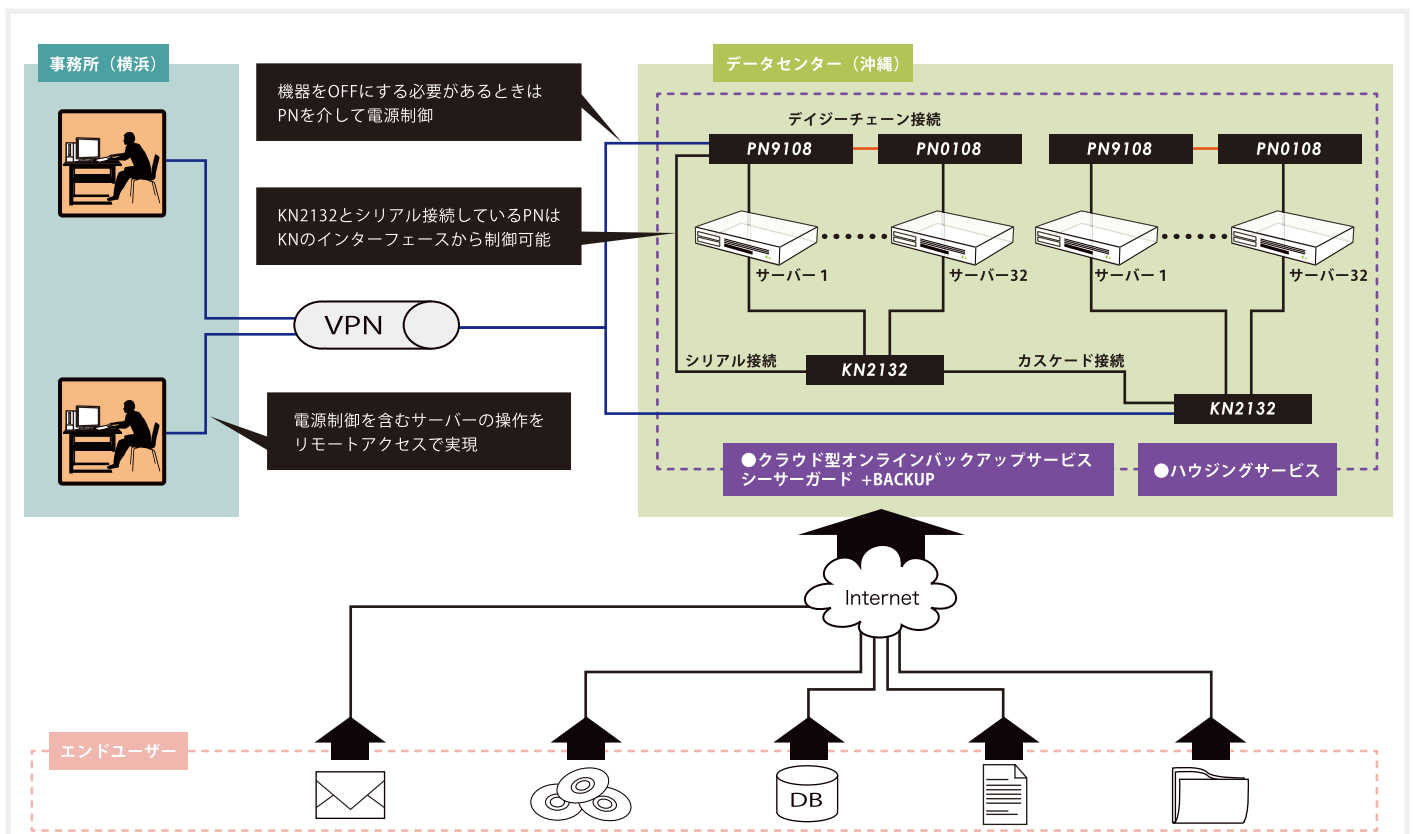
サーバーの遠隔操作に不可欠なIP-KVMスイッチは、今後の増設も考慮して、まとまった台数のサーバーにも対応できるポート数を備えたモデルであること。そして、自社で使用するWindowsやSolaris等に加えて、顧客資産として預かっている各種小型サーバーも集約できるマルチOS対応の製品であること。これらの条件に合致し、なおかつコストパフォーマンスの点でも最適な、リモート2ユーザー32ポートKVM Over the NET™のKN2132を採用することになった。

製品を購入するにあたり事前に貸出機評価の評価を行ったが、その当時に清水氏はこう振り返る。

「KN2132は過去のモデルと比較して、ブラウザインターフェースが統合されて使いやすくなっているという印象を受けました。また、別のモデルでは専用KVMケーブルが束ねると太くてエアフローの妨げになっていたのが気になっていましたが、コンピューターモジュールとカテゴリ5eケーブルで配線するKN2132では、そういった問題も解消される上に、自分たちでケーブルの長さを調節して美しく配線できることもメリットの一つだと感じました。」

そして、サーバーやネットワーク機器の電源をOFF/ONにする必要が出てきた場合でもリモートから対処できるようにと、リモート電源管理機器と一緒に導入することに。検討の結果、電源管理には、今回採用したIP-KVMスイッチの「KN2132」との連携がスムーズな8ポートPower Over the NET™「PN9108」に、拡張用の8ポートユニット「PN0108」をカスケード接続して運用することになった。

構成図



導入の効果

時間や場所を意識させずスピーディーに問題を解決へと導くリモートメンテナンス環境を構築

ATENのIP-KVMスイッチと電源管理ソリューションの組み合わせで、それまでに思い描いていたリモートメンテナンス環境を構築することに成功したが、特に効果を感じているのが、問題に対する対応速度の向上だという。管理者がたとえデータセンターから遠く離れたところにいようと、BIOSレベルでメッセージを確認できるIP-KVMスイッチと、サーバーやネットワーク機器への電源供給を制御できるPNシリーズのメリットを最大限に生かすことで、時間や場所を意識することなく、原因的確な切り分けと迅速な対応が可能になる。

不測の事態にも速やかに対処して問題を解決できるのは、もちろんドヴァの高い技術力があってこそその結果であるが、今回IP-KVMスイッチとリモート電源管理製品を同じメーカーのATEN製品で揃えたこともこれに少なからず影響しているようだ。

ドヴァでは以前、IP-KVMスイッチはATEN製品、リモート電源管理ユニットは他社製品をそれぞれ使用していた。メーカーが異なればインターフェースも当然違うため、アクセスする製品毎に使い方を覚えたり、別々の管理画面を呼び出したりしていた。これに対して、今回は電源制御を含めたサーバーの操作をすべてATEN製品で行うことによって、KNのインターフェースから電源管理PNシリーズのインターフェースを呼び出して操作することが可能に。ストレスの少ないシームレスなインターフェースによって、アクセス性が向上すると同時にオペレーションミスも低減し、結果として対応速度の向上につながったと言える。

感想・今後の展開

新たな IP-KVM 製品の活用や統合管理ソフトウェア CC2000 による一元管理にも高い関心



リモートアクセス機能をPCに簡単に付加できる
リモートアクセスユニット
CN8000



CN8000のリモートアクセス機能に
電源遠隔制御機能を追加した
KN1000

今回紹介した製品を導入する前からATEN製品を愛用してきた清水氏。弊社製品に慣れ親しんでいることもあり、新たなモデルも快適に使用できているという。ドヴァでは自身の保守作業用としてATEN製品を導入することが多いが、今回の導入でその操作性やコストパフォーマンスの高さを再認識。今では顧客の資産としてATEN製品を薦めることもよくあるそうだ。

また、同社ではデータセンターの監視や保守用として、これ以外にも1ポートリモートアクセスユニット「CN8000」を活用しているという。このCN8000は、コンピューターに取り付けるだけで、そのコンピューターに対してTCP/IPネットワーク経由のリモートアクセスを可能にする製品だ。通常はキーボード、モニター、マウスを接続せずに運用しているコンピューターを、現場でちょっと操作したいということになっても、このCN8000をセットアップすれば、使い慣れた自分のノートPCから簡単に遠隔操作できるので、非常に重宝している、と語る。小型で軽量のこの製品は、カバンに入れて持ち運びやすいということもあって、沖縄出張時の必需品となっているそうだ。

そして先日、このCN8000に電源のリモート制御機能を搭載した「KN1000」が満を持してリリースされた。単純なリモートアクセスの場合は前述のCN8000で十分だが、設置作業では電源のON/OFFも頻繁に発生する。そのようなケースでは、このKN1000が有用になるのでは、と清水氏はこの製品にも高い関心と期待を寄せている。

今後、このようなIP-KVM製品が将来的に増えた場合は、統合管理ソフトウェア「CC2000」を使えば一元管理することも可能だ。そうなった場合は、このソフトウェアを導入して、システムの保守業務に役立てていきたい、と語っている。



ATEN ジャパン株式会社

所在地: 〒116-0003 東京都荒川区南千住3-8-4 ATENビル
TEL: 03-5615-5810 FAX: 03-3891-3810
E-mail: sales@atenjapan.jp
ATEN ジャパンWebサイト: <http://www.atenjapan.jp>

お問い合わせは下記販売店まで